

じぶん たんけん みらいの じぶんへ

小学校2年生

I アクティビティについて

ねらい

幼い頃の写真やエピソードを集める活動を通して、多くの人々の支えにより、自分が大きくなったこと、いろいろなことが自分でできるようになったことなどに気づき、自分を大切にできる感情を育てる。

◆◆◆視点◆◆◆

- ◎自己尊重の感情
- 共感と連帯感
- コミュニケーション能力
- 参加・参画

設定の理由

この時期の児童には、自己中心的な傾向があり、それがもとで友だちとのトラブルが起こることがある反面、自分がかげがえのない大切な存在であることを十分に感知できなかったり、認識できていなかったりする面がある。

そこで、幼い頃のエピソードを収集したり、自分の成長を支えてくれた人々の自分に対する思いや願いにふれたりする活動に取り組みさせることにより、自己尊重の感情を育成し、他者をも尊重しようとする態度の基礎を築きたい。

アクティビティの概要 (18時間扱い)

活動1 「じぶんたんけん」をしよう 2時間

- ・自分が小さい頃のエピソード探し
- ・自分が小さい頃に使った物探し
- ・保護者や祖父母、幼稚園・保育所の先生へインタビュー



活動2 「じぶんたんけん」グループ発表会をひらこう 12時間

- ・「じぶんたんけん発見カード」にまとめる。
- ・発表会をひらく。



活動3 未来の自分へ手紙を書こう 4時間

- ・未来の自分へ手紙を書く。
- ・書いた手紙をタイムカプセルにする。

アクティビティーの実際

- 準備するもの
 - ・じぶん たんけん はっけんカード
 - ・みらいのじぶんへ てがみ カード
- アクティビティーの進め方

活動1 じぶんたんけん

- ① 生まれてから今までのできごとの中で、心に残っていることを話し合わせる。
 - ・幼稚園、保育所の頃のこと
 - ・小学校入学の頃のこと
 - ・2年生になってからのこと
- ② 「じぶん たんけん」の方法について話し合う。
 - ・その頃使っていた物を持ってくる。
 - ・写真を集める。

家庭で、資料収集、インタビューを実施

- ・保護者、祖父母、幼稚園・保育所の先生などにインタビュー

活動2 「じぶんたんけん」のグループ発表会

- ① 集めた資料やインタビューをもとに、「じぶん たんけん はっけんカード」を作成する。
- ② 「じぶん たんけん」グループ発表会をひらく。
 - ・保護者や幼稚園・保育所の先生など児童の成長を支えている方々にも参加してもらうようにする。
- ③ 参加した保護者や幼稚園・保育所の先生等から、児童の成長への思いを話してもらう。
- ④ 「じぶん たんけん」をふり返って話し合わせる。

<ふり返りの留意点と発問例>

○「じぶん たんけん」をして、生まれてから今までの間に支えてくれた人々の思いや願いがあること、自分は大切にされていることなどをふり返るようにする。

発問例

みなさんの成長を支えてくれる人たちは、みなさんにどんな願いをもっていますか。

発問例

これからどんな気持ちで生活しますか。

活動3 未来の自分への手紙

- ① 未来の自分へ手紙を書く。
 - ・「20年後の自分」は何をしているのかを想像して、手紙を書けるようにする。
- ② 書いた手紙を保護者や祖父母、幼稚園・保育所の先生等へ見せて、コメントをもらう。
- ③ 「未来の自分への手紙」を入れたタイムカプセルをつくる。
 - ・何枚も重ねたビニル袋に全員の手紙を入れ、ケースに入れる。
 - ・ケースを何枚も重ねたビニル袋に入れ、校庭内に埋める。

アクティビティを指導するポイント

- ◇ 本アクティビティ実施にあたっては、「ねらい」「内容」等を事前に保護者会や学年・学級だより、通知等で、保護者や関係機関に周知し、協力を依頼しておくことが大切である。
- ◇ 本アクティビティは、保護者や祖父母、幼稚園や保育所の先生等とのかかわりをとおして展開されることになるが、児童の家庭の状況、生育歴等を十分把握して実施することが大切である。特に、欠親家庭や施設等から登校している児童に対しては、その児童に深くかかわりのある方を対象として展開できるよう配慮することが大切である。
- ◇ 「活動1」の資料収集については、個人差もあることから、写真や小さい頃に使用した物を無理して持参させることがないよう配慮する。
- ◇ 「活動2」のグループ発表会においては、保護者をはじめ、児童の成長にかかわる方々にも参加していただき、児童の発表を聞くとともに、児童の今後の成長への期待について話してもらうようにする。
- ◇ 「活動3」の実施にあたっては、「10年後の自分へ」「20年後の自分へ」など、「未来の自分」をいつにするのか、タイムカプセルを開ける時期もそれに相応することから、児童と話し合っ決めていくことが大切である。

II 授業展開例

～小学校2学年「生活科」における授業展開例～

時	学 習 活 動	教師の働きかけ
2	1 生まれてから今までに経験したことで、心に残っていることを話し合う。 ・幼稚園、保育所の頃 ・小学校入学の頃 ・2年生になってからのこと 2 「じぶん たんけん」のやり方について話し合う。 ・その頃使っていた物を集める。 ・写真を集める。 ・保護者、祖父母、幼稚園・保育所の先生などへのインタビュー	○教師自身の小さい頃の思い出の物を提示して、生まれてから今までに、心に残っていること（楽しかったこと、できようになったことなど）を想起できるようにする。 ○事前に保護者会や学年・学級だより、通知等を活用し、授業のねらいや内容について協力を依頼しておく。 ○保護者のみでなく、児童自身の成長を支えてくれた方に広くインタビューできるようにする。
課外	「じぶん たんけん」をしよう！	
	3 「じぶん たんけん」をする。	○課外の時間を使って資料収集、インタビューを行うため、保護者等の協力を得て、安全に実施できるようにする。
1 2	4 集めた資料やインタビューをもとに、「じぶん たんけん はっけん カード」を作成する。 5 「じぶん たんけん はっけん カード」をもとに発表の練習をする。 6 グループ発表会を開く。 7 「じぶん たんけん」を振り返り、話し合う。	○「じぶん たんけん はっけんカード」に、集めた資料やインタビューで聞き取りしたことを年代を追ってまとめられるようにする。 ○4人～5人のグループを編成する。 ○友だちの発表を聞いて、その内容を嘲笑したり、非難したりすることのないよう全員に周知する。 ○保護者や児童の関係者（祖父母や幼稚園・保育所の先生など）にも参加していただき、児童の発表を聞いていただくとともに、児童の成長への願いについても話してもらおうようにする。 ○次の点に留意して振り返りを行う。 ・自分の成長を支えている方々の思いや願い ・これからの自分
4	8 未来への自分へ手紙を書く。 ・20年後の自分は、何をしているのか、話し合う。 ・20年後の自分に手紙を書く。 9 手紙をタイムカプセルに入れて校庭に埋める。	○20年後の自分について、何をしている自分がいるのか、話し合うことで、手紙を書くことへの意欲をもてるようにする。 ○書いた手紙を家庭に持ち帰り、保護者や祖父母、幼稚園・保育所の先生などにコメントをもらい、その方々の児童の成長への期待をとらえらえるようにする。

Ⅲ 資料

(1) じぶん たんけん はっけん カード

じぶん たんけんを しよう!

なまえ

1 ○○○○のころ (さいの ころ)
<どんな こ でしたか?>

<△△△さんから きいたこと>

2 ○○○○のころ (さいの ころ)
<どんな こ でしたか?>

<△△△さんから きいたこと>



(2) 未来への じぶんへ

未来への じぶんへ てがみを かこう！



なまえ

20年ごの ぼくへ わたしへ

Handwriting practice area consisting of ten horizontal dashed lines for writing.

20年後の（ ）さんへ期待すること

